

コスモスがつなげる友愛の歴史 ～「友情は永遠に」～



コスモスの種を交換する
メドケ市長と田村代表

2016 鳴門市友好コスモス祭りが、鳴門市花街道・地域づくりネットワークに参加する皆様方の手により10月1日から11月6日までの約1か月間にわたり実施されました。

期間中の10月14日には、かつて板東俘虜収容所があった跡地に整備されたドイツ村公園において、リューネブルク市親善使節団の団長でもあるメドケ市長と鳴門市花街道・地域づくりネットワークの田村代表がお互いの国のコスモスの種を交換しあい、さらなる交流の1ページを刻みました。その後、地元板東小学校の児童が親善使節団の

みなさんにコスモスの花を手渡したり、地元世話人のみなさんによる手作りのお菓子やすだち湯などの接待もあり、友好を深める心温まる実り多いコスモス交流となりました。

鳴門市とドイツのリューネブルク市は、1974年に姉妹都市盟約を結び、その翌年から毎年、交互に親善使節団が互いの市へ訪問していますが、1992年鳴門市の親善使節団がリューネブルク市をした訪問した際、コスモスの種交換が行われたことが、その後続く「コスモス交流」の第一歩となっています。

板東俘虜収容所のドイツ兵らが母国や亡くなった仲間をしのんで収容所に植えたといわれるコスモスを花づくり運動の柱のひとつに据え、将来にわたり、鳴門市の財産となりうる種をまかれた、先人の叡智に改めて気づかされるとともに、「友情は永遠に」の精神を引き継いでいくことの大切さを確認できた機会となりました。



「友情は永遠に」の横断幕を前に
して全員で記念撮影



すだち湯などで接待を
する地元のみなさん



We Love **なると**

まちづくり活動応援補助金 活動団体報告



平成28年度は9事業が採択された「WeLove なるとまちづくり活動応援補助金」。

市民の皆さんの「鳴門を良くしたい!」という思いがたくさん込められています。

今回は、これまでに実施された活動団体2団体からの活動報告をお届けします。

—「新池川ふれあい健康ウォーク事業～しゃべって・笑って・いきいきウォーキング 2016～」 (実施団体) 新池川をきれいにする会—

ノルディックウォークを始めて

新池川をきれいにする会 会長 乾 肇

WeLove なるとまちづくり活動応援補助金事業を受けて、27年度よりノルディックウォークを始めました。昨年の5月にノルディックウォーキングのインストラクターに来てもらって初めての講習会を開催し、7月の1ヶ月間にナイトウォークを開催いたしました。その後、徳島文理大学と関係各位の協力を得て、ウォーキング講習会、筋力測定などを行ってきました。

今年も引き続き、補助事業を受け昨年同様の活動を続けていますが、何か面白い企画はないかということで、徳島文理大学柳澤准教授との話で「24時間チャリティーノルディックウォーク」の話が持ち上がり、ノルディックウォークを多くの人に知ってもらえるのに、面白い企画ではないかとの話になりました。

8月27日当日までの準備に時間もかかりましたが、徳島文理大学生、NARUTO 総合型スポーツクラブ、ボーイスカウト鳴門第9団、市民協働推進課、市職員等、多くの方々の参加を得る事ができ、共催・後援も19団体となりました。

当日は、オープニングイベントとして、新池川へのEMダンゴ投入から始まり、またNARUTO 総合型スポーツクラブによるキッズパフォーマンスも実施し、新池川広場で踊る子どもたちが可愛らしかったのが印象的でした。19時よりノルディックウォークを開始し、またボーイスカウト鳴門第9団のナイトウォークも実施しました。石越橋から撫養橋までの2キロの周回コースを「タスキリレー」で繋ぎました。多いときは20人を超えて歩き、少ないときは3人、AEDを持っての自転車での伴走者が付き、24時間廻りました。24時間で400人以上の方がノルディックウォーク「タスキリレー」を楽しんでいただきました。



広場では、募金活動、中央地区自主防災会とボーイスカウト鳴門第9団の協力を得て、参加者との賄い炊き出し訓練を実施しました。ノルディックウォーキングの講習会を2回開催しました。また、「100歳体操」や新池川堤防沿いの「清掃活動」、徳島文理大学による「和太鼓」、うたの広場「NKB」の子どもたちによる「第九」、「カヌー体験」、「ノルディックウォーク講習会」など、19時のノルディックウォーク終了まで様々なイベントを用意することができ、みなさんに楽しんでいただくことができました。終了時には広場でキッズパフォーマンスがあり、子どもたちの躍動感にあふれたダンスで締めくくりました。最後の集合写真まで約70名の方々に参加いただきました。

企画の段階で一番悩んだのが、昼間歩くだけでは人は集まらない、昼のイベントが出来ないかということでした。終わってみればよくこれだけの人が集まってくれたものと、自分自身不思議に思っています。来年も行うかもしれませんが、その時にはまた今年以上のご協力をお願い致します。

企画の段階で一番悩んだのが、昼間歩くだけでは人は集まらない、昼のイベントが出来ないかということでした。終わってみればよくこれだけの人が集まってくれたものと、自分自身不思議に思っています。来年も行うかもしれませんが、その時にはまた今年以上のご協力をお願い致します。



————「イザ！カエルキャラバン！in 鳴門 vol. 2」(実施団体) 地域活性化団体MOVE————

平成28年10月2日(日) 鳴門ウチノ海総合公園で、イザ！カエルキャラバン！in 鳴門 vol.2 を開催しました。当日は曇一つない、絶好のイベント日和となり、延べ約900人の親子連れでにぎわうほど大盛況でした。

訪れた親子は余ったおもちゃを持ち寄り、他の子が持って来たおもちゃと交換。また、親子で遊びながら防災を学べる多くのプログラムを体験し、さらに多くのおもちゃをゲットし、楽しそうにしている姿に会場全体も和やかな雰囲気に包まれました。ステージではHIPHOPダンス、石焼いも子リサイタル、渦戦士エディショーが行われ、3時間という短い時間のイベントでしたが、来場者の皆様に楽しんでいただけたのではないかと考えております。



子どもたちがゲーム感覚でブースに参加することにより、自然と防災知識が身に付き、いつ起こるかわからない自然災害に対応できるようになってほしい。そういう想いで、スタッフ一同このイベントを作り上げてきました。第1回目より、さらに内容の濃いプログラムとなった第2回。ここで終わるのではなく、さらに第3回、第4回と続けることで、子どもたちに防災知識を身につけてもらい、その子どもたちから家族やお友達、周りに少しでもその知識が広がればと考えております。

イベント開催数ヶ月前から準備に当たり、当日も全力でサポートして下さった、学生ボランティアのみなさん、鳴門市消防本部をはじめ行政関係のみなさん、三ツ石消防分団、ダッシュ隊徳島、鳴門ウチノ海周辺活性化委員会、NARUTO 総合型スポーツクラブやその他多くの関係者みなさんのご協力に支えられ、私たちにとっても学び多き充実した一日となりました。

地域活性化団体 MOVE 一同



行事のお知らせ

第15回 鳴門市市民活動交流研修会

～市民活動で“鳴門の元気”をつくろう～

- と き 平成29年1月28日(土) 午前10時～午後4時
ところ キョーエイ鳴門駅前店4階 イベントホール
内 容 (1) 活動事例発表
(2) NPO・ボランティアマッチングフェア〈パネル展〉
(3) 市民活動に関する相談コーナー
(4) この指とまれ！マッチング
同時開催イベント 第82回鳴門市消費者の市・消費生活展
第23回安全なまちを考える市民の集い



参加無料
皆様のご参加を
お待ちしております

◇お問い合わせ◇ 鳴門市市民環境部 市民協働推進課

☎088-684-1200 担当：藤川

第29回 徳島県ボランティア・NPO 研究大会が開催される



「東北と徳島子ども学びプロジェクト」
ダッシュ隊徳島 本田剛士氏による活動報告



徳島県社会福祉協議会 吉田貴史氏による
熊本地震の救済参加報告

2016年11月6日(日)、徳島県総合福祉センターにおいて、第29回徳島県ボランティア・NPO研究大会が特定非営利活動法人徳島県ボランティア協議会の主催により開催されました。

中高生ボランティア標語表彰式に続き、報告の部では、最初に、東日本大震災で被害にあった子どもたちを対象に「受け入れプロジェクト」などを行っている災害復興支援ボランティアの「ダッシュ隊徳島」の本田剛士氏より本年度、同会が実施した「東北と徳島子ども学びプロジェクト」で東北の子どもたちを招いて、地元徳島の子どもたちとの間で行われたミーティングや阿波踊りなどで楽しんだ様子などが紹介されました。

次に、徳島県社会福祉協議会の吉田貴史氏より本年4月に発生した熊本地震の救済活動参加報告ということで、現地での実際の体験を交えながら、災害ボランティアセンターとはどういうものか、また社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置する意義や、災害ボランティアセンターの運営3原則①被災者中心②地元主体③安全管理など、社会福祉協議会の役割をふまえ、基本に立ち返ってわかりやすく、実務面での話がされました。

休憩をはさみ、引き続いての講演では、中嶋信徳島大学名誉教授による「多様な担い手の協働が減災社会を可能にする」との演題で、東日本大震災復旧・復興支援事業の経過などをふまえ、減災社会の実現に向けた望ましいありかたについての話がされました。

話の中で、被災地では、復興は進んでいるものの、住宅問題をはじめ、多くの問題を抱えており、自立支援に向け、いまだにそのロードマップが開けているとは言いがたい状況にあることが話されました。また、復旧・復興事業の推進体制についても、宮城県は「創造的復興」を掲げているが、企画も推進も中央依存であること、一方、岩手県では「オール岩手」体制で推進していることなどが挙げられ、推進体制の違いを指摘され、住民主体の視点でのシステム改革への転換が必要との認識を示されました。



中嶋信 徳島大学名誉教授による講演

そして、減災社会の実現には、行政やコミュニティ・企業だけでなく、NPOも加えた「協働正四面体」の構築が有効であり、今後は特にNPOの果たす役割が重要であるとの結びで話を終えられました。

参加者たちも、想定される大震災を念頭に、真剣に耳を傾けるなど、有意義な研究大会となりました。